

科目名	国際関係論特講	担当者	クサノ ヒロキ 草野 大希	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>国際関係論における代表的な理論に関する理解を深めると同時に、国際関係の「歴史および現実」についても学習し、結果として、複雑な国際関係を分析的、理論的な視座から捉えられるようになることが本科目の目的です。具体的には、リアリズム、リベラリズム、コンストラクティビズム等の国際関係論の主要学派が提供してきた諸理論を学習し、「分析レベル」に基づく国際事象の考察方法を学び、国際関係論の主要理論を総合化する「複雑システム」の観点を理解し、過去および現代の国際秩序に関わる具体的な問題を複眼的な視点から考察できるようになることが目的です。</p>		
到達目標	<p>(1)リアリズム、リベラリズム、コンストラクティビズムなどに代表される国際関係論の主要学派が提供してきた理論についての知識を得る (2)「分析レベル」に基づく国際事象の考察方法について学ぶ (3)国際関係論の主要学派の成果を総合する複雑システムについての理解を深める (4)第一および第二大戦、冷戦、冷戦終結後のグローバル化、アメリカの介入政策など国際秩序に関わる具体的な事実（歴史）を理論的に考察する</p>		
学修方法	<p>基本教材を基に複数の課題を設け、その課題に答える形で学習を行う。具体的な課題の設定は、履修者と相談のうえで決定します。 学習を進めるに際して、質問や疑問が生じた場合には、メールにより教員に相談したうえで問題を解消し、効果的に学習を進めてほしい。 レポート課題としては、後述のように、合計4つのレポートを提出する必要があります。</p>		
スケジュール	<p>前半は「基本教材1」を中心とした内容を学習範囲とする。6月末までに一通りの学習を終了し、「基本教材1」に関連する「レポート課題1」を7月中旬、「レポート課題2」を8月中旬までに、それぞれ初稿を提出する。教員からのコメントを考慮した上で修正した最終稿を、学事暦記載の締切日までに提出する。 後半は「基本教材2」を中心とした内容を学習範囲とする。10月末までに一通りの学習を終了し、「基本教材2」に関連する「レポート課題1」を11月中旬、「レポート課題2」を12月中旬までに、それぞれ初稿を提出する。教員からのコメントを考慮した上で修正した最終稿を、学事暦記載の締切日までに提出する。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	70%	(A) 内容（課題に的確に答えているか）、(B) 構成（文章の構成は合理的で論理的か）、(C) 調査の精度（十分な調査に基づくものか）、(D) 文章表現力
	平常評価	30%	レポート作成の過程や質問などのやり取りを通して総合的に判断
履修者への要望	<p>国際関係論または国際政治学に関する入門的な知識があれば、履修者の学習はよりスムーズに進むと思われませんが、たとえそのような知識がなくとも、履修者の努力次第では、履修は可能と考えられます。また、本科目の基本教材は日本語で書かれた書物であるため、高度な英語力（読解力）は必須ではありません（ただし、より発展的な学習を行う場合には、高い英語力が武器となることは確かでしょう）。他方で、現在の世界情勢を含め、国際関係に関心がない人にとっては、本科目の履修は難しいと考えます。本科目は、所謂「時事解説」を主眼とするものではありませんが、ここで学ぶ様々な知識は、現在あるいは今後の世界秩序を構想する上でも有用になるものです。それを自分自身で実践できるような、普段から国際問題に高い関心を有している積極的で意欲的な学生が履修してくれることを期待します。なお効果的な授業運営の為に、履修希望者は、履修登録と同時に担当教員にその旨、連絡して下さい（kuslsaku@mail.saitama-u.ac.jp）。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： ジョセフ・S・ナイ・ジュニア， デイヴィッド・A・ウェルチ 教材名： 『国際紛争—理論と歴史（原書第9版）』（有斐閣，2013年） ISBN: 978-4641149052 2,800円+税
	ハーバード大学での講義のためにナイによって執筆された「国際関係論」における定評ある教科書です。20世紀の二つの世界大戦や冷戦を経た後、人類は地域紛争やテロに見舞われている。なぜそうした紛争が起こるのか。相互依存が進展し、民主的価値が広まれば世界秩序が達成されるのか。「理論」と「歴史」の相互検証を通して、国際関係論の分析道具を提供する最適の教材です。
参考図書	吉川直人・野口和彦編『国際関係論（第2版）』（勁草書房，2015年） ISBN:978-4-326-30244-4 3,300円+税
履修上のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・古代ギリシャにおけるペロポネソス戦争からグローバル化する21世紀の世界に至るまでのマクロな国際関係の歴史的動向を掴む ・国際事象を純粋な「歴史学」ではなく、社会科学の一分野としての「国際関係論」の理論的、分析的、方法的視座から考察する感覚を身につける ・リアリズム、リベラリズム、コンストラクティビズムなどの基本的知識を習得する
レポート課題 1	「分析レベル」に基づく国際関係の分析とはどのようなものか。具体的な分析の「例」に言及しつつ、その可能性と限界について論じなさい。 留意点 ：とくに、教材の第1章～第5章の内容を十分踏まえて課題に臨んでください。
レポート課題 2	冷戦終結後の約25年間に進展したグローバル化は、世界の平和と安定にどのような影響を与えたか。「非伝統的」とされる国際関係の新たな展開に留意しつつ、論じなさい。 留意点 ：とくに、教材の第6章～9章の内容を十分踏まえて課題に臨んでください。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 草野大希 教材名： 『アメリカの介入政策と米州秩序—複雑システムとしての国際政治』（東信堂，2011年）ISBN:978-4-7989-0085-8 5,400円+税 【著者より割引で購入可】
	国際関係論の主要学派であるネオリアリズム、ネオリベラリズム、コンストラクティビズムの理論的知見を総合化するものとして「複雑システム」の理論を位置づけ、同理論の妥当性を、20世紀初頭の米州におけるアメリカの介入事例から検証した本書は、「理論」と「事実」の両面から高度な国際関係の理解を目指す上で最適の教材です。
参考図書	廣瀬和子『国際法社会学の理論—複雑システムとしての国際関係』（東京大学出版会，1998年） ISBN: 978-4130311618 5,200円+税 【アマゾン中古有】
履修上のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・ネオリアリズム、ネオリベラリズム、コンストラクティビズムの理論的特徴、およびそれぞれの理論が何を抽象し、何を捨象したかについてきちんと理解する ・ネオリアリズム、ネオリベラリズム、コンストラクティビズムが互いにどのような関係にあるのかを複雑システムの視点を通して、的確に理解する ・アメリカの介入政策に見られる複雑な特徴についての見識を深める
レポート課題 1	複雑システムとは何か。ネオリアリズム、ネオリベラリズム、コンストラクティビズムなどの既存の理論との関係を踏まえながら、複雑システムの特徴・意義について論じなさい。 留意点 ：とくに、教材の第1章～第4章の内容を十分踏まえて課題に臨んでください。
レポート課題 2	アメリカは19世紀末から21世紀の現代にかけて、他国の内政への介入を繰り返してきた。具体的な介入事例を任意に選び、その特徴を国際関係論の理論的な観点から明らかにしなさい。 留意点 ：教材の第5章～第12章の内容は参考になろう。